

多職種連携研修会報告 No.4

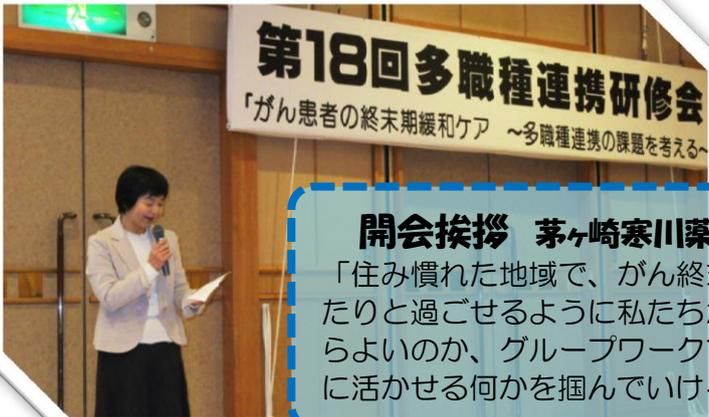
多職種連携研修会報告は、研修会の内容やアンケート結果を参加者等に発信しています

茅ヶ崎市保健所地域保健課
在宅ケア相談窓口

電話：0467-38-3319
FAX：0467-82-0501

第18回多職種連携研修会（H31.1.24開催）

「がん患者の終末期緩和ケア ～多職種連携の課題を考える～」



開会挨拶 茅ヶ崎寒川薬剤師会 大久保敦子会長

「住み慣れた地域で、がん終末期になっても少しでもゆったりと過ごせるように私たちがどのように関わっていったらよいのか、グループワークで課題を検討すると共に今後に活かせる何かを掴んでいけると良いと思う。」



座長 茅ヶ崎市立病院 藤浪潔医師(中央診療部長)

事例報告やグループワークを踏まえて、「在宅を考えている患者がいた場合、病院医師と在宅医師と連携しながら、徐々に在宅へ移行できると良い。」とまとめていただきました。

事例紹介 ひきのクリニック院長 引野雅子氏

・がん患者に対する多職種連携の課題を抽出し、現状の共通認識を図っていくと共に、グループワークを通して更なるネットワークの深化を図ることを目的に、「がん終末期緩和ケアにおける多職種連携」について事例報告をして頂きました。



- ・地域では、多職種で在宅がん患者さんを支えている
- ・疾患に限らず終末期にはADLが低下⇒医療・介護の連携が必須



アンケート感想（一部抜粋）

- 「グループワークは顔の見える関係づくりになります。」
- 「多職種で同じテーマで話し合いができることは有意義なものでした。」
- 「少しずつ在宅医療に病院の先生目が向いてきているようで良かったです。」
- 「終末期がん患者に関わった各専門職の意見が聞けてとても勉強になりました。」



過去の様子については、ホームページからチェックしてください！！